

3月22日のレッスン

キリスト・イエスにあって一つとなる

鍵となる聖句：「ユダヤ人もギリシャ人もなく、
奴隷も自由人もなく、男も女もありません。あなた
がたはみな、キリスト・イエスにあって一つな
のです。」

ガラテヤ人への手紙 3:28

聖句抜粋：

ガラテヤ人への手紙 3:24-29

イエスが弟子たちを初めて天の御国を宣べ伝えるために遣わされたとき、彼らは「イスラエルの家の中の失われた羊」だけに赴くよう命じられました（マタイ10:5-7）。これは、イスラエルがまだ神の契約の民であったという事実と調和していました。ただし、その状況は間もなく変わるのです。今日の聖句でパウロは、律法の契約を通して導きを求めていたイスラエル人が理解すべきことを説明している。「律法は、私たちをキリストに導く教師でした。それは、私たちが信仰によって義と認められるためです。しかし、信仰が来た後、私たちはもはや教師のもとにはいません。」ガラテヤ人への手紙 3:24,25

今日の鍵となる聖句は、イエスが「すべての人」のための身代金として死なれたため、モーセの律

法の下にあったあらゆる区別が今や取り除かれたというパウロの宣言である（テモテへの手紙一 2:5,6）。その結果、「聞く耳を持つ者」は皆、キリストのもとに来ることができた（マルコによる福音書 4:9）。クリスチャンの神における立場は、今や「新しい創造物」としてのものであった。

（コリント人への第二の手紙5:17）。福音はすべての人に無償で与えられ、神の御目における個人の立場は、キリストの体の一員として認められるのです。「あなたがたがキリストに属するならば、あなたがたはまことにアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。」ガラテヤ人への手紙3:29

ユダヤ人は、過去に彼らの民族に与えられた恵みが、キリスト教の兄弟愛の中で特権的な立場をもたらすと考えてはならない。同様に、異邦人も、ユダヤ人が民族として律法の契約のもとでの以前の恵みから切り離されたからといって、個々人が主の目に不遇であると考えてはならない。双方とも、神が今後、民族的な差異を無視し、ユダヤ人であれ異邦人であれ、一つの「キリストのからだ」の一員としての忠実さに応じて報いることを知るべきであった。コリント人への第一の手紙 12:12,13

奴隷制度はイスラエルにおいて規制された制度であり、パウロの時代にもなお存在していた。彼は、キリストのからだの一員となった奴隷が主人の意思を無視してよいとは言っていない。むしろ、主は奴隷を、あたかもキリストにある「自由人」であるかのように祝福し得ると述べている。

(コリント人への第一の手紙7:21,22)。ある点では、天の御国に与るために必要な謙遜な性格を身につける上で、主人の立場よりも奴隷の立場の方が有利であった。しかしいずれにせよ、奴隷は、天の希望に関して主が自分の地上の立場を顧みないことを知るべきであった。

ユダヤ人女性は他の古代文化の女性より自由を享受することが多かったが、イスラエルの家父長制の法律は主に家庭内領域に彼女たちを限定し、養育と家庭生活に責任を負わせた。祭司職は彼女たちを排除し、いくつかの顕著な例外を除いて、彼女たちの神殿へのアクセスは制限されていた。パウロは今、これらの家父長制の法律が「キリスト・イエスへの信仰による神の子ら」にはもはや適用されないと宣言する。ガラテヤ人への手紙3:26

私たちはすべての人々に福音を伝える特権を喜びとします。全世界への証しとして「御国の福音」を宣べ伝えるというイエスの大宣教命令に忠実でありましょう。マタイ24:14